

ニホンザリガニ

澄川森林の沢筋でニホンザリガニがついに確認されました。本年度捜索隊第3次目の快挙であります。2016年7月4日、午前のことでした。

存在を以前に確認したと明言していた新田啓子さん(NPO 真駒内・芸術の森回廊基金代表)にガイドをお願いしての酒井捜索隊長の執念が稔りました。末永い保身を願ひまして



発見場所は天敵のアライグマやタヌキ、キツネに知られたくないのも秘密にさせていただきます。

日本に棲むザリガニは3種類で、ネットで見つけた下の図で、大きさの比較ができますが、ご覧のとおり唯一の在来種ニホンザリガニが一番チビであります。他の2種は外来種でアメリカ北西部原産で大型のウチダザリガニと、アメリカ南部ミシシッピ河流域原産の中型のアメリカザリガニです。日本での分布的にはニホンザリガニは北海道と青森県、秋田県と東北地方でも北部の水源地に限られていて、落葉のみを食べてひっそりと生きています。

ウチダとアメリカは雑食性で繁殖力旺盛なので食料用として意図的に移入されてほぼ日本全国にはびこっています。

ウチダザリガニは和名からして在来種と誤認されそうですが、同定に際して北大教授の内田亨氏の持っていた標本が決め手となったことでの命名とのこと。1926年から1930年にかけて5回も移入され北海道の代表的な湖の支笏、洞爺、摩周、阿寒、屈斜路などに放湖されたとのこと。

アメリカザリガニもウチダ同様の目的で移入され、こちらは田んぼや農業用水路、人里近くの池や沼にはびこり、チビッコ達にマッカチンと称されて、釣入門に大きな貢献をしているのです。

ザリガニは3種類ともに食べられますが、いずれも寄生虫の宿主ですので、料理の際には生食や生焼け、生煮えの無いように、しっかり火を通していただきます。

